

価格帯別にみる介護施設

中国では様々な介護施設が存在しているものの、サービスの質が低かったり、介護状態や医療依存度、経済状況によっては入居できる施設がなかったりする高齢者も少なくありません。

ある企業調査による、全国の入居可能な施設は16万8000カ所、ベッド数は727万1000床あります(18年末時点)。ベッド数は前年比3.3%増加したものの、高齢者1000人あたりの床数は29.1床で、前年より1.8床減少しています。先進国の1000人当たり50〜70床を大幅に下回っており、サービス供給が高齢者の人

口増加に追いつけず、問題は深刻化しています。

政府系施設は入居費用が月額約3000元前後(1元16円として)とかなり低価格のため、ほぼ満床です。入所率は非常に高い一方、サービスの専門性が低いのが現状です。中間所得層をターゲットとしている月額8000元までの価格帯の施設は、入居率は高く、サービスと価格のバランスが取れています。

一方大手企業や外資が運営していることが多い月額8000元以上の高級施設は、入所率3割前後と低く、ハード面を重視している富裕層をターゲットにしているため、

需要は高くありませぬ。施設を3つの価格帯でわけると、低所得者向けが最もニーズが高く、施設が不足しており、待機者が出ています。

ブラックリスト制度で質向上へ

14年の中国老年社会調査によると、60歳以上の高齢者の中で、一人当たりの平均年収が貧困基準収入2448元以下の人口は全体の23%を占め、この高齢者貧困率に全国高齢者人口をかけた、全国貧困高齢者数は4895万人となります。また、貧困率は都市部で12%〜30%、農村部で36%となっており、

農村部が非常に高いことが分かります。前回お伝えしたように、中国では介護サービスの「ブラックリスト制度」が施行されました。この制度によって、企業が精査され、ニーズに合った施設づくり、サービス向上への一助になるとを望みます。

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。